

定例記者会見 市長あいさつ

報道機関の皆様におかれましては、大変お忙しい中、令和8年8月の定例記者会見にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

まず、「令和8年熊本地震」と「令和8年8月千葉豪雨」により亡くなられた方々に、深く^{あいとう}哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

両災害に対する本市の対応でございますが、熊本地震におきましては、国の応急対策 職員派遣制度に基づき、神奈川県応援職員の一員として市職員を派遣しております。

また、本市は千葉県の柏市、木更津市と災害協定を締結しておりますが、今回の千葉豪雨におきまして、柏市では1名の方がお亡くなりになられたほか、床上浸水・床下浸水など家屋にも大きな被害が出ております。

木更津市では幸いにも大きな被害はないとのことではありますが、現在のところ、両市からの応援要請はございません。要請があれば、直ちに対応してまいりたいと考えております。

さて、8月22日、新潟市で第54回全国消防救助技術大会が開催され、綾瀬市消防本部が9年ぶり15回目の出場を果たしました。

この大会は、全国の消防職員が救助活動に不可欠な体力・精神力・技術力を競うもので、綾瀬市は惜しくも入賞には至りませんでした。最後まで全力を尽くした選手たちの健闘を称えたいと思います。

本日の案件にもございますが、9月6日に開催いたします「消防・救急フェア^{にぜろにろく}2026」において、大会出場隊員による訓練披露を実施いたします。

今後も技術の研鑽^{けんさん}に努めるとともに、市民の安全・安心のために邁進^{まいしん}してまいります。

7月1日からリチウムイオン電池等回収のため運用を開始している「iGomi™ボックス」ですが、7月末時点の1カ月間で約190kgの電池等を回収することができました。

各メディアにて報道いただいたこともあり好調な滑り出しができているものと考えております。

最近では環境省の「都道府県と市町村等との連携によるリチウムイオン電池等の広域的な回収・処理体制の構築に係る実証事業」として、県から「iGomi™ボックス」を活用した取り組みを実施したいと相談があり、本市から大和、座間、海老名に対し当該事業への参画を持ちかけたところ、合意をいただくことができました。

既にキックオフミーティングを行い、事業の進め方などを共有したところでございます。

再資源化が困難とされてきたこのリチウムイオン電池等を、今後は効率的に再資源化していくため、県、4市、「iGomi™ボックス」の開発事業者であるJFEエンジニアリング株式会社で連携し、再資源化の促進を図ってまいりたいと考えております。

また、7月20日から8月7日にかけて、新規事業としてトピレックスイムクラブアヤセにおいて「小学生初心者 水泳教室」を実施いたしました。

まずは定員150名で募集を開始いたしましたが、想定を大幅に上回る441名ものお申し込みをいただき、急遽、全てのお子様に参加いただけるよう、^{うけいれ}受入枠を拡大して実施いたしました。

期間中は事故もなく無事に終了し、参加した小学生からは「泳ぐのが好きになった」「もっと練習したい」といった声が多数寄せられるなど、大変ご好評をいただいております。

今後も利用者のニーズを反映させながら、より良い事業となるよう継続してまいりたいと考えております。

最後に、少し先の話にはなりますが、綾瀬市は令和１０年１１月１日に市制施行５０周年を迎えます。

節目の年を市民の皆様とお祝いできるよう、今年度から１０年度にかけ、様々な記念事業を検討してまいります。

今年度はそのスタートとして、現在、ロゴとキャッチフレーズの公募を行っております。

なお、机上に募集要領を配布しておりますのでご覧いただければと思います。

綾瀬市の今後のますますの発展のため、ぜひ市民の皆様と一緒に、事業を成功させたいと考えております。内容は随時発表してまいります。

以上、定例記者会見にあたってのごあいさつとさせていただきます。